鵜飼政志の自己紹介

写真は、5月まで謎ということで

鵜飼　政志（うがい　まさし）

1966年生まれ（おじさんです）　　**質問・コンタクト先**　mrugai@tguiss.jp

出身は島根県浜田市ですが、新宿の北東エリアに住んで30年以上なので、もはやこちらのほうが地元です。

専門は、日本近代史、特に明治維新史（めいじいしんし）が専門です。いちおう博士号を取得しております。大昔のことですが。単著2冊、次の単著を書きかけていますが、いろいろあって思考停止中です。出版社が怖いです（笑）。

最近はあまり行っていませんが、数年前までは 25 年くらい連続でロンドンに行っていました。時には毎月・半年くらい連続で通ったことがあります。もちろん、学者として調査・研究のためです。ということで親英派ですね。アメリカには行かなくなりました。

主に大学で教えてきましたが、高校も2つの附属高校で教えてきて、それだけでも気がつけば16年以上の経験があります。

2020年度は、月・水で出講します。いずれも午前中。直接の用件がある時は、水曜日（午前から昼休み頃）でお願いします。月曜日はすぐに帰ってしまうと思います。

日本史A（鵜飼政志）の授業開始にあたり

高校日本史の授業には、以下の2つがあり、授業時間も内容も異なります

●日本史Bの教科書

現代までの日本史を概述したもので、内容もそれなりに詳細です。

大学受験用といった側面があり、その内容はなかなか更新されません

●日本史Aの教科書

ほぼ近現代だけを概述したものです。

比較的執筆者の意見が自由に反映された独自の内容であることも多いです。

◎日本史の教科書は、その内容がそのまま政治問題だといわれるように、さまざまな批判が浴びせられることがあります。みなさんが、そのことにこだわる必要はありませんが、高校での歴史教育が描く日本史は、現代の日本社会が描く一つの歴史認識（日本の歴史をいかに考えているか）であり、他にもさまざまな歴史解釈が存在するということだけ受けとめて（＝覚えて）おいてください。

難しいことをいえば、歴史は人が生きている時代の社会常識をもとに考え・描いた過去の歩み（叙述）にほかなりません。つまり、絶対的な一つの叙述や解釈は存在しないということです。しかし、その一方で近代社会（私たちが生きているまさに同時代）では、同

じ社会を構成する一員として、過去の歴史に対する共通の歴史認識が求められです。国民国家教育というものであり、これにもまた地域社会の存在やマイノリティー集団の存在が無視されがちという問題がしばしば提起されます。

いずれにせよ、学校で学習する日本史教育は、過去の日本社会を考察する一つの解釈だと考えておけば十分です。近現代の歴史学習には特にこうした姿勢が求められます。

◎なにか難しそうなことを述べましたが、以上はみなさんが卒業し、大学生や社会人になってから考えても遅くないことです。今は、講義で語られる内容をありのままに理解していきましょう。疑問も多いと思います。質問も歓迎します。

授業のやりかた

・各学期、独自に中間テストを実施します。もちろん、期末試験もあります。

・教科書の内容には準拠していきますが、評価基準は黒板に記された内容、鵜飼の喋る説明、配布物が優先されます。ゆえに、ノートは重要です。ただ写すだけでないメモを忘れないようにしましょう。

・4月中に配付する課題も成績の参考になるので、必ず提出しましょう。

第１回　授業概要と課題

課題は最後にあります　**頁数は日本史Ａ教科書のものです**

最初の話題は、幕末維新期の日本、そして明治維新（史）といわれる政治・社会変動です。江戸時代（＝徳川幕府の時代）の末なので幕末はわかるでしょう。維新期とはクーデタと内乱によって西洋型国家を目指し始めた明治初年のことを概ね指します。つまり、近代化（＝西洋化）を志向し始めた時代、それはいつからなのか、そしてどういう経緯をたどったのかというのです。もっとも、当時の日本人にとって西洋との関係はいかなるものであったのか、近代化とはいかなるものなのか、近代国家が完成したのはいつなのか、いずれもきわめて曖昧です。ゆえに、さまざまな解釈が成り立ちます。教科書に描かれる叙述も一つの解釈にすぎません。

明治維新の始まりを天保期に求める歴史解釈について

一つの解釈として、年号でいうところの天保期が指摘されます。徳川幕府の体制が、社会的に大きく揺らぎ始めた時代だからといわれます。しかし、天保は約 30 年近くあり、17 世紀中葉以降、限定的であった西洋諸国の船舶が日本近海に出没していき、北方からロシアの影が迫るのは 19 世紀初頭前後、すなわち天保期より 40 年以上前からですし、国内社会では経済発展する地域と自然災害などで荒廃する地域との差が顕著になるのも天保期以前のことです。天保期とは、むしろ日本の支配者（将軍や大名）にとって後戻りできないほど体制改革が求められた時代ということになります。しかし、それでも改革が進展したわけではありません。西洋との関係でいえば、その技術を摂取しようとした一部諸藩の姿勢が強調されますが、それが本格的におこなわれるのは、徳川幕府がペリーと条約を結び、そして貿易を認める安政期以降のことです。

そういうことに留意しながら、教科書の 22～23 頁、24～25 頁を読んでおいてください。

いわゆる「鎖国」体勢とアジアとの関係について

日本がオランダや中国以外との関係を拒否し、国を鎖したのが日本の江戸時代であり、「鎖国」と呼ばれてきましたが、近年ではその理解は大きく異なる結果になっています。実態としては、オランダとの関係といっても、それはヴァタビア（現在のインドネシア）に拠点を置くオランダ東インド会社の支店が長崎に置かれたのであって、オランダ本国との直接的な関係はなく、またそれとて長崎に来航して非合法な貿易をおこなっていた清国人との関係を補填するものにすぎず、そのほか薩摩が琉球を経由して清国との関係を維持し、対馬が朝鮮との関係を続けていったというものでした。詳細については、33 頁下段に説明がありますが、詳細はあらためて 5 月以降の授業で説明しようと思います。日清・日朝関係の説明に必要なので。

その一方で、(東)アジアの関係は、伝統的な冊封体制を前提として成り立っていました。

これは、古代中国歴代王朝が周辺諸国に求めていた関係で、経済面に注目する場合、朝貢関係ともいわれます。これを、元以降、明・清の各王朝がアジア国際関係（秩序）として採用しました。琉球や朝鮮、ベトナムなどの周辺諸国が、中国に使節を派遣して歴代の中国皇帝に忠誠を誓い、（名目的に）臣下となる（藩属国に封じられる、中国は藩属国の内政に介入しない）ことで、アジアの秩序を保とうというシステムでした。ただし、すべての国が中国に使節を派遣したわけではありません。日本は、室町時代以降、中国皇帝に使節を送ることはありませんでした。しかし、その一方で中国の体制や文化・思想を尊重し、支配体制の基準にしてきました。例えば、徳川幕府や諸藩は、中国の思想である儒学を支配の基軸においていきました。

後日、関連する図録のページも読んでおいてください。

西洋諸国とアジアとの関係、アヘン戦争の衝撃　30～31 頁

18 世紀初頭から、工業化（産業革命）を達成したイギリスやそれ以前の時代から貿易国家であったオランダがインドや東南アジアに進出し、さらに中国へと市場を求めていきました。よく知られているように、中国では茶が求められ、その取扱量を増やしていきましたが、中国からは徐々にアヘンが売込商品になっていきました。しかし、アヘンは麻薬で人体に有害なことから、清国政府は取扱を禁止していきますが、中国貿易における重要な売込品になっていったことから、インドや中国在住のイギリス商人たちはこれに異をとなえ、イギリス本国でも一部の商工業者や政治家たちがこれを支持し、結果としてフランスもこれに味方して、英仏連合軍が広東など清国の港や都市を攻略していきました。清国に対して崇拝の念を抱くことが多かった日本の支配者たちは、清国の敗北に衝撃を受けました。同時に、清国を破ったイギリスが日本に攻めてくるという流言もあって、徳川幕府は西洋の技術や知識に関心を抱きながらも、西洋諸国に敵意を抱きつづけ、近海を来航する外国船砲撃を命じたこともありました。しかし、西洋諸国の報復を恐れて強硬策は長く続かず、対外関係は混迷をきわめていきます（33 頁）。

後日、関連する図録のページも読んでおいてください。

開国前夜の日本

国内ではさまざまな社会矛盾が発生して体制の変革が求められ、対外的にはアヘン戦争情報などにより危機を覚えた日本の支配者たちでした。しかし、国家的な体制変革となると、その決断を下しかねていました。そもそも徳川幕府の体制は、徳川家の家内機関であったため、時として家臣（将軍直接の家来である旗本や万石以上の領地を有した譜代大名など）の利害が優先され、また享保の改革（18 世紀初頭、8 代将軍徳川吉宗が主導）以来、ことごとく失敗に終わりました。水野忠邦が主導した天保の改革も譜代大名の領地整理をおこなおうとしたため失敗に終わりました。それどころか、水野忠邦は責任を問われ引退

に追い込まれ、領地も削減されました。これでは徳川家臣たちは怖くて、誰も改革に賛同しなくなります。

ところがその一方で、内外情勢の変化に刺激され、徳川幕府に改革を実行させようとする大名が徳川家内外からでてきました。のちに歴史家が**雄藩（大名）**と呼んだ連中です（32～33 頁）。雄藩大名は、徳川幕府に「もの申すことができる」大名という意味で、その面々は徳川と関係から限定されましたが。教科書には、水戸藩主であった徳川斉昭の肖像が挿入されていますね。それはともかく、彼らは幕末の政治関係に重要な役割を果たしていきます。

なお、教科書には薩摩藩（調所広郷）と長州藩（村田清風）による改革のことが書かれていますが、これについては 5 月以降の授業中に説明します。

そして、アメリカ合衆国によるペリー艦隊の来航を迎えていきます。

日本史 A（鵜飼）　第 1 回課題

mrugai@tguiss.jp に提出。質問もこのアドレスで受け付けます。

PDF またワード形式の添付文書(書式指定　A4　35×40 行)によって提出（図表や写真の挿入は不要）。期限は 5 月 5 日まで。

＊ファイル名は、以下の通りとする。

ex.　5 年 5 組 1 番鵜飼政志の場合　　5501_鵜飼政志　※_は、半角アンダーバーです。

＊作成した課題の冒頭に、「第 1 回課題」「5 年〇組〇番　氏名」を記入すること。

＊事前に確認しているオンラインでの提出が難しい生徒は、学校・鵜飼政志宛で印刷したもの・A4 用紙に手書きして書いたものを郵送しても可とする。

課題はあと 2 回（計 3 回を予定）あるので早めに提出すること。

1)　天保期という時代は、西暦で何年から何年までか記しなさい。

2)　安政期という時代は、西暦で何年から何年までか記しなさい。

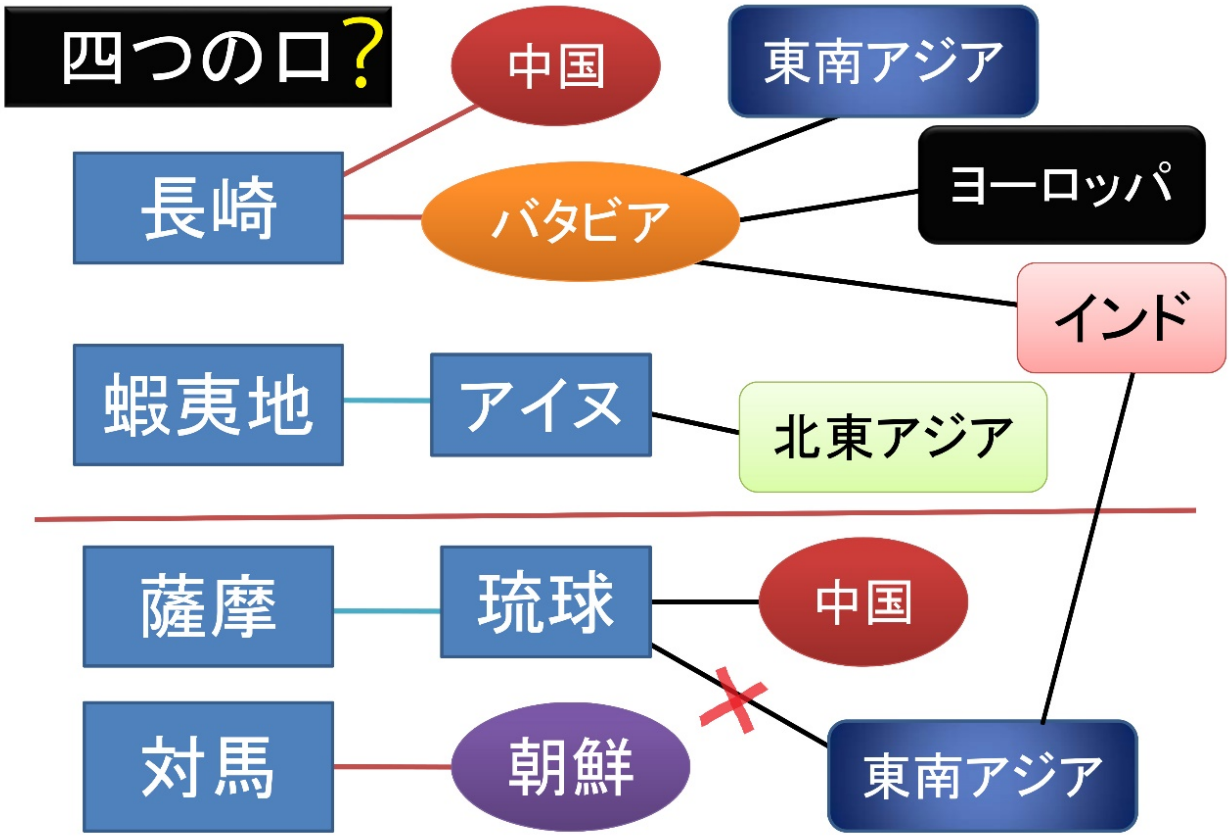
3)　別紙は、「鎖国」の実態をふまえた概念図です。ここから読み取れることを記しなさい（過度な大量記述は不可）。枠をはみ出さないこと。

「？」や「×」印は無視してください。

なお、徳川将軍のほか、薩摩の大名は島津氏、対馬の大名は宗氏です。また、「蝦夷地」（松前口）については言及不要です。

4)　雄藩大名には、どんな人がいましたか。徳川斉昭以外を 2 名以上記しなさい。インターネットなどで調べてもかまいません。

別紙


四つの口?
中国
東南アジア
長崎
バタビア
ヨーロッパ
インド
蝦夷地
アイヌ
北東アジア
薩摩
琉球
中国
対馬
朝鮮
東南アジア